

施策番号	施 策 名	予算額(百万円)	
512	県境を越えた交流・連携の推進	74	
【2010年度の目標】 県境や圏域を越えた交流・連携が図られ、一つの県だけでは対処できない課題を解決するための取組が進んでいます。			
項 目	基準年度の状況	1999年度実績	2001年度の目標 (2010年度の目標)
広域連携事業数	6事業 (1997年度)	34事業	30事業 (50事業)

これまでの取組

県境を越えた広域交流圏の形成を促進するため、他府県市との連携及び庁内調整に努め、広域連携事業等の一層の実現を図りました。

近畿中部連携ゾーンにおいては、平成12年度以降「福井・滋賀・三重・滋賀」4県により、「日本まんなか共和国」の愛称を付けて連携事業を展開するとともに、「対関西戦略プラン」及び「2005年日本国際博覧会戦略プラン」を踏まえた戦略事業の具体化など検討しました。

紀伊半島連携ゾーンにおいては、吉野熊野地域の地域資源を活かした広域リゾート地域の形成や広域観光ルートづくりなどを進め、活発な交流の行われる地域づくりなどを推進しました。

環伊勢湾連携ゾーンにおいては、3県1市において、伊勢湾の総合的な利用と保全に係る指針を策定公表するとともに、広域観光やITによる地域情報化について検討を始めました。

首都機能移転については、三重畿央地域への首都機能移転の実現に向け、関係4府県により「三重畿央新都構想」を策定、公表するとともに、関西の官民が一体となった「三重畿央新都推進協議会」を設立し、国や西日本地域への働きかけ、要望、PR活動を通じ三重畿央地域の優位性等を広く訴えました。

平成13年度の取組

平成13年度においては、本格的な地方分権の中で、各地域が自立し、自己責任のもと自らの考えに基づき地域の個性を生かした地域づくりを進めるため、引き続き、県境を越えた地域連携を積極的に進めます。

近畿中部連携ゾーンにおいては、日本まんなか共和国として、お互いに補完・刺激しあいながら文化、観光、環境等の分野において全国に情報発信し、地域づくりに取り組めます。

紀伊半島連携ゾーンにおいては、優れた自然・歴史・文化資源や豊かな農林水産資源を生かした地域振興、広域観光に取り組むとともに、県際間での教育や防災における連携を行います。また、和歌山県、奈良県と連携して熊野古道の世界遺産登録の実現に向けた取り組みを進めます。

環伊勢湾連携ゾーンにおいては、中部国際空港、日本国際博覧会などの大規模プロジェクトにかかる連携を進め、これらのインパクトを生かした地域づくりや伊勢湾再生に向けた取り組みなどを進めます。

首都機能移転については、衆議院「国会等の移転に関する特別委員会」が平成12年5月、移転先候補地の絞込みに関し『2年を目処にその結論を得る』旨決議しました。このため、絞込みの山場に向け、「三重畿央新都推進協議会」を軸に、関係4府県で策定した「三重畿央新都構想」に基づくPRや要望活動等を、さらに一層強力に実施します。

主な事業

- 1 首都機能移転促進事業 (50,570(50,570)千円)

【(101)近畿・中部圏との交流ネットワークの形成事業】〔総合企画局〕
「三重畿央新都構想」により首都機能の移転の必要性、三重畿央地域の優れた資源や特性、候補地としての優位性などを国民、県民に広く訴えると同時に、国会等の調査・審議への積極的な対応、要望活動等を通じ三重畿央地域への移転促進を図ります。

2 (新)伊賀 関西戦略事業 (4,233(4,233)千円)
<地域予算> 【(101)近畿・中部圏との交流ネットワークの形成事業】

〔伊賀県民局、総合企画局〕

伊賀地域が広域的に連携・協働し、関西への情報発信力を強化することによって、関西における伊賀地域の存在感、集客力、商品・サービスの競争力を高めます。

戦略会議を設置し、関西マスコミに対して効果的な情報発信を行います。

3 紀伊半島広域連携プロジェクト推進事業 (3,000(3,000)千円)

【(301)紀伊半島広域交流圏の形成事業】〔地域振興部〕

三重、奈良、和歌山の3県が紀伊半島南部地域(吉野熊野地域)の振興を図るために設置した吉野熊野地域振興協議会において、3県にまたがる広域連携事業を展開します。